令和５年度

精神障害者スポーツ大会開催事業　報告書

令和６年３月

公益社団法人　日本精神保健福祉連盟

目　　次

はじめに（公社）日本精神保健福祉連盟　精神障がい者スポーツ推進委員会　高畑　隆　・・　２

特別全国障害者スポーツ大会燃ゆる感動かごしま大会（バレーボール競技）　・・・・・・・　４

特別全国障害者スポーツ大会燃ゆる感動かごしま大会（卓球競技）　・・・・・・・・・・・・　10

特別全国障害者スポーツ大会燃ゆる感動かごしま大会（バレーボール競技）
ブロック地区予選会　・・・・・・・・・・13

公益社団法人日本精神保健福祉連盟　精神障がい者スポーツ推進委員会名簿・・・・・・・・・・42

はじめに

（公社）日本精神保健福祉連盟理事

精神障がい者スポーツ推進委員会　委員長　高畑　隆

障がい者スポーツ事業として、2001 年第１回全国障害者スポーツ大会（全スポ）が宮城県で開催されました。全スポは、障がいのある選手の全国的な「スポーツ祭典」で、競技を通してスポーツの楽しさ、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加を促進する活動です。選手は、障害者手帳所持が原則となっています。そして、新たな人の社会参加の推進も目的としており、個人競技は都道府県・指定都市で行われる選考予選会を経て決められますが、１位の方が代表で全スポに参加できるとは限りません。全スポに出場する選手は、住民票のおかれている都道府県・指定都市の選手団として参加します。精神障がい者の競技は、2001 年第１回宮城県大会の全スポ関連行事としてバレーボール競技精神が初めて開催されました。2002 年第２回高知県大会からは、開催都道府県のスポーツ振興を目的とするオープン競技としてバレーボール競技精神が開催され、第７回大会まで開催されました。2008 年第８回大分県大会からは正式競技となり、三障がい（身体、知的、精神）の開催となりました。

団体競技は、６ブロック予選会を経て６つの都道府県・指定都市が参加します。精神障がい者は、各都道府県・指定都市から直接出場する競技の個人競技である卓球（精神）が位置付けられ（男女各１名参加）が、2019 年 19 回茨城県大会から参加できるようになりました。しかし、台風や新型コロナウイルス感染症により全スポ予選会や全スポが中止となってきました（2020 年第 20 回鹿児島、2021 年第 21 回三重大会）。2022 年第 22 回栃木県大会は新型コロナウイルス感染症対策が充分行われ、バレーボール競技・卓球競技が開催されました。翌年、新型コロナウイルス感染症が一段落した 2023 年、全スポ特別大会鹿児島大会が開催され､精神障がい者が参加する競技として卓球､バレーボールが開催されました。大会は盛況の中で無事終了し、2024 年佐賀県大会に引き継がれます。

都道府県・指定都市の選手団人数は、その都道府県・指定都市の手帳数で按分されます。精神障害者保健福祉手帳の取得者は現在 100 万人を超えていますが、当初のスポーツ推進の参加資格基準のまま残っている状況です。全スポの参加原則は「手帳」であり、障がい者であることが原則です。今後、精神障害の選手は、手帳による精神障がい者としての参加認定が急務と考えます。また、選手は住居地の住民票がおかれてある都道府県・指定都市の選手団に参加することになっています。あるいは、通っている施設や学校が所在する都道府県・指定都市でも参加ができますが、ここで言う施設とは社会福祉法や障害者総合支援法の施設であるべきです。全スポに参加する選手基準が障がい者に統一され、ダブルスタンダードでなくなることを期待します。

全スポの種目は、個人７種目、団体７種目で、選手団 5,000 人限度となっています。精神障がいは個人１種目、団体１種目、150 人程度の参加となっています。全スポ参加の精神障がい関係者は、「全国障

害者スポーツ大会競技規則集」の熟知が望まれます。

精神障害のスポーツ競技団体は、現在ソーシャルフットボール協会（フットサル）、ソーシャルバスケットボール協会（バスケットボール）の２団体で、デイケアや地域クラブ等の多様な選手・チームが登録しています。ソーシャルフットボール協会は、日本障害者サッカー協会の一員であり、国際大会も開催しています。ソーシャルバスケットボール協会は、各地でラウンドを開催し、台湾・アジアとも交流しています。今後、精神障害は、卓球とバレーボール等の競技団体づくりと多様な大会づくりが急務と思われます。

スポーツは、精神障害（精神疾患）と関係者、市民に多くの効果と意義があります。スポーツ精神医学会では学術的側面から研究を行っていますし、当事者やチームも各地で社会活動を繰り広げています。今後は精神障害（精神疾患）のスポーツ関係者や選手等が、精神障害（精神疾患）のスポーツ連絡協議会づくり、次世代育成等で協働していくことが望まれます。

精神保健福祉関係者の方々は、精神障害（精神疾患）にとってよりよいスポーツ活動、スポーツ大会、スポーツ環境の推進にご助力、ご協力いただけると幸いです。

2024 年３月

令和５年度年度全国障害者スポーツ大会　視察報告書

報告年月日：令和５年 11 月 13 日

報告者所属・氏名：（公社）日本精神保健福祉連盟　精神障がい者スポーツ推進委員会　田所　淳子

１．大会概要

１）大会正式名称：特別全国障害者スポーツ大会燃ゆる感動かごしま大会

２）大会開催日時：令和５年 10 月 28 日（土）～29 日（日）

３）大会開催場所：平和公園串良平和アリーナ（鹿児島県鹿屋市有里 4820-１）

４）主催者：公益財団法人日本パラスポーツ協会、文部科学省、鹿児島県、鹿屋市他

５）後援団体：厚生労働省　他

６）競技主管団体：鹿児島県バレーボール協会

７）競技補助員：鹿児島県立串良商業高等学校、鹿児島県立鹿屋高等学校、鹿児島県立鹿屋農業高等学校、鹿児島県立鹿屋工業高等学校、鹿屋市立鹿屋女子高等学校、学校法人前田学園鹿屋中央高等学校

８）大会運営事務団体・担当者：鹿児島県国体・全国障害者スポーツ大会局競技力向上対策課　藤園　剛

９）参加都道府県数（チーム数）；７都府県（７チーム）

10）参加都道府県：青森県、東京都、福井県、大阪府、山口県、福岡県、鹿児島県

11）参加者数：

選手、チーム役員数：選手 80 名、チーム役員 24 名

観　客　数：10/28 約 200 名、10/29 約 220 名

運営スタッフ：（各日）選手団実施本部員・実施本部員（鹿児島県庁職員）12 名、選手団サポートボランティア 35 名、競技補助員（6 高校の生徒）約 60 名、運営ボランティア 20 名、情報支援ボランティア（手話・筆談）10 名、鹿屋市実施本部員（鹿屋市役所職員）18 名、競技付帯サービス（マッサージ類）４名、医療救護　医師・看護師各１名、鹿児島県バレーボール協会 34 名

２．競技会状況

鹿児島県の県庁所在地である鹿児島市から南東へ車で約２時間、大隅半島の中央に位置する鹿屋市は、食肉と茶葉栽培の盛んな県内３番目に人口が多い市。大戦の特攻隊航空基地跡に作られた平和公園にある串良平和アリーナで、バレーボール競技（精神障害者の部）が開催された。身体・知的のバレーボー

ル競技会場は、鹿児島市で開催された。

10 月初旬に同体育館で特別国民体育大会成年女子バレーボール競技が開催されたが、その時に設営したカラーコートが今回の大会まで温存されたことから、全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神）において初めてのカラーコート使用となった。

３．試合の状況

１回戦　A―１　福井県　対　東京都

初戦であり、両者ともに多少の硬さが見られたが、すぐに福井県の動きがよくなり、東京都はエンジンがかからず、サービスミスも多く、終始福井県がリードして第１セットを先取した。第２セットは気分を入れ替えた東京都がリードして進めたが、新進気鋭の福井県は中盤、逆転に成功。若い長身選手の鋭いアタックが決まり、勢いを保って第２セットも取った。初戦からラリーが続き、観覧席からの応援も盛大であった。

１回戦　A―２　鹿児島県　対　山口県

地元鹿児島県チームの初出場に観客は 200 名を数えた。山口県が少しリードしながらもシーソーゲームが続いたが、中盤、鹿児島県が逆転し、その後は山口県のミスを誘い、逃げ切って鹿児島県が第１セットを先取した。第２セットも同じ展開となり、中盤、鹿児島県が逆転。力はあるものの山口県は後半、小さなミスも重なり、最後は鹿児島県が 25-14 で逃げ切り、全国大会初の１勝となった。

１回戦　A―３　大阪府　対　青森県

常連出場の２県対決。初盤は大阪府が少しリードしながらシーソーゲームが続いたが、青森県がドライブサーブで６点連続得点し、中盤に逆転。勢いがついた青森県は常にリードして進める。しかし大阪府も粘いレシーブを見せ、22-22 の同点となったが、デュース前に青森県が競り逃げた。その流れで第２セットも青森県が終始リードしながら点を重ねた。一時は３点差まで大阪府が追い上げたものの、終盤、青森県が軽快なアタックで点差をひろげ、25-14 で勝った。

準決勝　A―４　福岡県　対　福井県

シードされていた福岡県と初勝利直後の福井県が対決。大会慣れしている福岡県が中盤までリードするも、テンポがよくなってきた福井県のプレーが福岡県のミスを誘い、福井県が逆転する。後半、福岡県は自滅ミスやサーブネットが続き、福井県が福岡県を突き放して、第１セットを先取する。第２セットは、福井県の若いアタッカーを中心に鋭いスパイクが決まり、サービスエースを重ねる。結果、福井

県は終始大量リードし、25-13 で、初出場ながら決勝に駒を進めた。

準決勝　A―５　鹿児島県　対　青森県

新進気鋭の地元チームとベテラン出場青森県との対決。ジャンプ力や破壊力のある選手を数名擁した鹿児島県が終始、優位にプレーを続け、あっという間に第１セットを先取する。第２セットも勢いづいた鹿児島県が常にリードする。終盤、青森県も追いつこうとするが、最後は鹿児島県が 25-19 で逃げ切り、決勝に駒を進めた。

交流戦　A―６　東京都　対　山口県

東京都がセットカウント２-０で勝利した。

交流戦　A―７　大阪府　対　東京都

東京都がセットカウント２-０で勝利した。

３位決定戦　A―８　福岡県　対　青森県

常連出場県同士の対決。青森県がリードしながらもシーソーゲームが続いた。しかし、青森県のレシーブミスや連係ミス、自滅ミスが目立ち始めた中盤、福岡県が逆転する。その後も青森県のミスもあり、25-16 で福岡県が第１セットを先取する。第２セットは両者攻防が続き、粘り強いレシーブやラリーも見られ、シーソーゲームであったが、中盤、福岡県が抜き出た。しかし、青森県が追いつき、最後は再びシーソーゲームに。両者とも気迫あるプレーだったが、青森県が 25-22 で逃げ切り、今大会初の３セット目にもつれこんだ。最終セットは最初から白熱したプレーが見られ、シーソーゲームが続き、どちらに転んでもおかしくない展開になったが、その均衡を破ったのは福岡県の強烈なドライブサーブによる３連続得点。福岡県が４点リードし、青森県は追随したものの福岡県が 25-22 で勝利し、銅メダルを手にした。

決勝戦　A―９　福井県　対　鹿児島県

ブロック代表初出場と完全初出場同士の決勝戦だが、横綱相撲レベルの対決が予感された。大歓声の中、両者ともパワーのある攻撃で始まったが、鹿児島県が一歩リード。しかし、福井県が同点に追いつき、初盤から目が離せない攻防が続いた。一時は福井県が３点リードするが、鹿児島県が追い付き、22-22 に。激しいラリーが続き、デュースになる。最後はネット際の接戦となり、29-27 で鹿児島県が先取

する。第２セットも初盤から激しい攻撃、ラリーが続いたが、中盤、福井県が徐々に鹿児島県を突き放し、６点リードする。鹿児島県も必死の追い上げを見せるが、最後は何とか福井県が 25-21 で逃げ切り、勝敗は３セット目に託された。第３セットもパワーラリーが続き、どちらが勝ってもおかしくないシーソーゲームとなる。中盤、強力なジャンプサーブで連続得点を重ねた福井県が４点リードするが、鹿児島県も最後の力を振り絞り、粘り強いプレーで追いかけた。しかし鋭いアタックをたたみかける福井県が最後は逃げ切り、25-20 で勝利した。福井県は平成 30 年に開催地枠で初出場したが初戦敗退。今回、東海・北信越ブロック代表としては初出場、初優勝。

４．大会の結果；優勝　福井県、　準優勝　鹿児島県　　３位　福岡県

５．次年度の開催について

令和６年度の全国障害者スポーツ大会は佐賀県において開催される。身体・知的・精神のバレーボール競技は３会場に分かれて実施され、精神障害者バレーボール競技は小城市芦刈文化体育館において令和６年 10 月 26 日（土）～27 日（日）開催される。なお、リハーサル大会は令和６年６月８日（土）～９日（日）に前述の同じ会場で開催予定であり、九州ブロック予選大会を兼ねる。

６．大会主催者・関係者との意見交換の状況や感想

①鹿児島県庁担当者

・競技運営に関しては、鹿児島県バレーボール協会が全面的に取り仕切ってくださり、熱心に準備を進めていただいた。バレーボール協会と県・鹿屋市との連絡調整も円滑に行えた。

・大会会場について。使用した体育館は 10 月初めに一般国体でも使用されたが、その時と今回大会での運用が違った点があった。例えば土足禁止箇所などの違いがあり、外部観客からは「この前の国体では違ったのに」との意見が聞かれた。一般国体と同じ会場の場合は、レイアウトや会場環境等を大きく変えない方がよいだろう。

・観客に使用してもらえる応援グッズを準備しておくべきだった。

・観覧席の真ん中に要約筆記のホワイトボードを設置したため、一般観覧客から「観覧しにくい」と意見があった。

・先に開催した一般国体（成年女子バレーボール）ではＶリーグチームがプレーしたので、観客が多かった。その後も市民の関心が高まり、本大会にも一般観客が大勢来場した。

・次年の佐賀県庁担当者には大会中もＯＪＴで業務を伝達指導した。

②鹿児島県バレーボール協会

・ＬＧＢＴＱの選手への配慮をし、トイレ、更衣室など柔軟に使用できる箇所を設けた（実際にはＬＧＢＴＱの申し出はなかった）。

・ルールに関して、熟知していない監督のチームが２つほどあった。指導者は競技規則を熟知いただきたい。

・競技審判に関しては有資格者が従事しているが、ボールも普通のバレーボールのボールとは異なり、審判業務に戸惑うこともある。審判用のポイントガイドブックのようなものがあれば、戸惑いなく審判業務ができると思われる。

・競技規則に関しては、大きく問題となることはないが、意図的に両手のひらを上に向けてのレシーブが若干見られることから、６人制競技規則を遵守してプレーをお願いしたい。

・服装規定について。運営要領に規定が記載されているが、身体・知的においては遵守できておらず、指導をしたようだ。

７．その他、全体の感想

①競技に関して

・競技レベルは近年においても向上し続けている。各チームが日々、研究・研鑽していると思われる。

・今回、２県のチームがブロック代表・開催地枠で初出場を果たし、好成績を残した。スポーツを通じた社会参加が拡がることを期待したい。

②運営に関して

・新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴い、感染対策などの煩雑な作業がなくなり、運営側の負担が減少した。

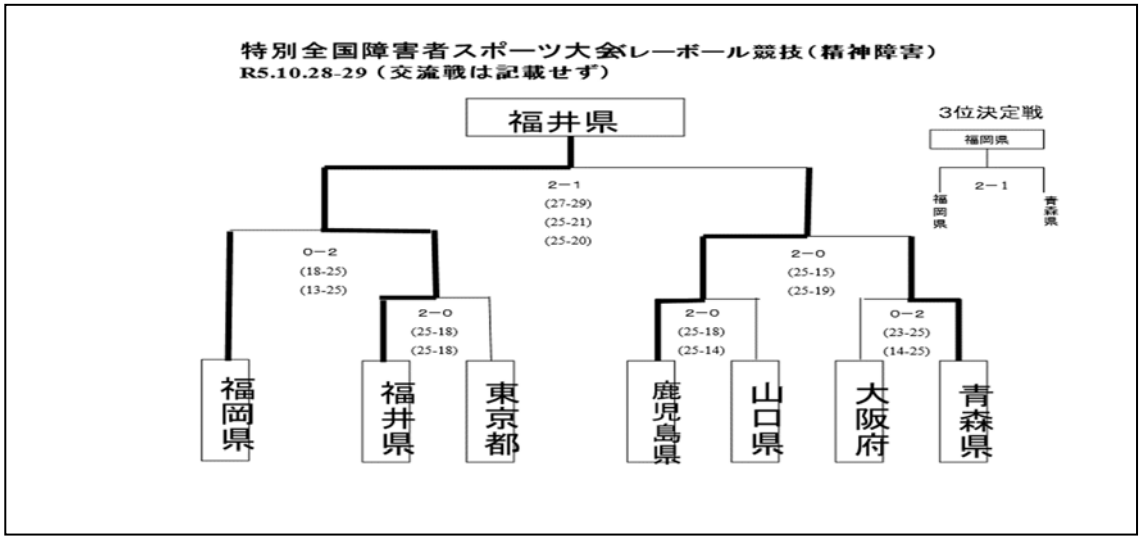
・鹿児島県バレーボール協会は、より良い運営、温かいもてなしを目指し工夫いただいた。例えば、スタッフ（高校生含む）への精神障がいに関する研修会の開催、練習中や試合前の選手の氏名読み上げ紹介、試合間の体育館内での音楽放送、閉会式の椅子着席など、随所にご配慮いただいた。

・競技中の負傷者２名（軽傷）、救護係が迅速に対応した。

・次々年開催県の滋賀県バレーボール協会が視察に来られていたが、全国障害者スポーツ大会の仕組みや流れに関する知識、情報を持っていないようである。今後、適切な機関からの情報提供や助言が必要だと思われる。

③その他

・今回の大会で特筆すべきは、応援団のすばらしさであった。各選手団に４名ずつサポーターボランティアスタッフが帯同されているが、今回、そのスタッフは鹿屋体育大学バレー部から派遣され、専門的なサポートがなされた。そのスタッフ 28 名が大応援団を結成し、息の合った掛け声や声援、応援歌を観客席で披露。参加７チーム全ての応援をにぎやかに繰り広げ、フロアの選手や他の観客からも賞賛の拍手が起きるほどであった。







日本精神保健福祉連盟　理事

精神障がい者スポーツ推進委員会　事務局長　高畑　隆

2023 年 10 月 31 日(火)

燃ゆる感動　特別全国障害者スポーツ大会かごしま大会

■全国障害者スポーツ大会

　　個人競技　卓球競技　基礎資料

①特別　全国障害者スポーツ大会　卓球　別冊

卓球大会用

②一般卓球・ＳＴＴ　競技役員　業務必携

③卓球監督者会議資料

④選手団連絡事項　卓球一般・ＳＴＴ

⑤卓球　表彰案内予定表

が作成されている。

事前連絡、大会当日ついては

鹿児島県卓球総括担当者とは相手先の必要時に連絡があり回答や返送を即答て依頼されていた。

こちらの宿泊等の確認依頼には回答をいただけず、本大会３日前に鹿児島県卓球協会から何となく伺う、確認のため本大会２日前に鹿児島県卓球総括担当に確認してやっと明確になる。

・開催県により国体・競技統括者は県職員である。全スポ大会では、競技の統括担当者は非常勤や契約職員の場合がある。事前の大会視察・確認ができていなかったり、急に４月から雇用された職員が担当の場合がある。事前大会やスポーツ大会運営を全く知らない素人の方が統括責任者として運営されたりする。県職員が統括担当として事前大会視察し、継続した大会運営が望まれる。

従って、日本バラスポーツ協会技術指導員の役割・立ち位置は、大会主催県・担当、主管競技団体の認識が不明確なようである。リハ大会・全スポ大会の受付の名簿に技術指導員の氏名はなく、本部に行って競技主管団体・卓球団体に挨拶し、技術指導員が派遣されることを説明してＩＤカードを頂いた。

卓球競技では

大会運営は県が統括、開催地の市も主催者であり運営協力をする。試合運営は競技主管団体である鹿児島県県卓球連盟が行う。

審判長は鹿児島県卓球連盟の役員の方で、競技規則等に関する問題、障がいに対する競技ルール上の緩和対策について個別の判断を行います。

また、競技面では

①一般卓球ルールが基本

②全スポ・障害ＳＴＴでは日本バラスポーツ協会規約

③競技運営上の課題は、障がい者卓球協会の技術委員による対応のみで可能である（日本バラスポーツ協会派遣技術指導員）

全国障害者スポーツ大会卓球大会の卓球ルール・競技技術上の課題は、一般卓球と異なる課題が見られる。これは障がい特性の考慮やＳＴＴ競技における身体障がい者への対応において顕著である。知的障がいや精神障がいではある程度、上記①②で対応可能と思われる。
全国障害者スポーツ大会・卓球競技や試合の課題は、主に身体障がいにおける競技環境調整・緩和措置とＳＴＴである。
従って、全スポでは、日本バラスポーツ協会技術指導員の大会運営・試合の技術的支援として、障がい者卓球協会から１名派遣で対応が可能と思われる。

精神障がい者の特性に対応するため、救護所に設置する精神障がい者用の休養室のベッド３～４台は、非常に有効である。選手のストレス時の安息・安静の場の確保のためには必要不可欠である。
知的障がいの特性等は、知的障がい者卓球協会で検討されたい。

救護所に併設した休養室（ベッド３～４台）は、精神障がいだけではなく、内部障がい、視覚障がい等の方も利用されている。利用者は試合参加で気持ちが昂（たかぶ）るなど、正式練習や大会試合期間に利用された。救護所に併設する休養室（ベッド３～４台）は、全スポ大会では必要な場である、

全国障害者スポーツ大会開催県では、開催県の競技主管団体が事前に「全国障害者スポーツ大会競技規則集」を購入して活用いただきたい。そして、例えば、競技主管団体は、必要なページを全スポ大会で従事予定の審判団・審判員に事前に周知を図ることが望ましい。また、、開催１年前に大会審判員従事予定の審判員に全スポ競技規則集の必要競技規則ページの周知の研修会を開催することが望ましい。
この研修会講師は、例えば、障がい者卓球協会と日本バラスポーツ協会技術指導員が務めることが最適である。これは、開催への事前周知と共に、全スポ大会開催に向けた技術指導員との連携につながり、大会運営の円滑化が推進できる、
従って、参加する選手・選手団がよりスムーズにリハ大会・全スポ大会に参加できる。

参加都道府県・指定都市は、全スポ開催前に確認される規則、緩和措置など開催県からの依頼時に、文書で依頼・確認し、事前に充分な確認作業を行なっている。従って、大会当日時の監督者会議では文書の最終確認程度の範囲である。

一般競技大会では、競技主管団体が競技運営を統括している。そして、大会は、競技主管団体・審判長が円滑な運営を図っている。従って、参加都道府県・指定都市の監督等は、全スポ大会の主催団体・主管団体の運営を尊重する。そして、競技運営の円滑な推進に向けて、競技上の障がい特性配慮等の技術的な確認以外は運営面に協力し、主管団体がよりよい全スポ大会での競技の推進を支援することが重要である。
開催県での楽しい全スポ大会は、障がい者スポーツ推進と主催県のレガシーにもつながる。

卓球競技の今後の課題

障がい特性で発声できない方、重複障がい者等では、競技開始等のサインにローカルルールで実施されていた。障がい者のやりやすさを考慮しながら、例、①開始は手を上げる、行きますは、手でテーブル叩く、②本人が手を上げた時に主審が「はい」と代わりに発声、次に本人が手を上げると主審が「行きます」と発声して試合開始と。今後、一定の検討が必要と思われる。

特別全国障害者スポーツ大会燃ゆる感動かごしま大会

北海道・東北ブロック予選会　精神障がい者バレーボール競技　　報告書

日本精神保健福祉連盟　理事

精神障がい者スポーツ推進委員会　事務局長　高畑　隆

特別全国障害者スポーツ大会 バレーボール競技（精神障がい者の部）

北海道・東北ブロック予選会の概要

１ 目 的

この大会は、特別全国障害者スポーツ大会に出場する北海道・東北ブロック代表チームを決定するとともに、スポーツを通じた心身の健全な成長と、社会参加の推進を図ることを目的とする。

「参考」全国障害者スポーツ大会の目的

障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に居することを目的とする

２ 主 催

山形県、山形県障がい者スポーツ協会、山形県精神障がい者スポーツ推進協議会

３ 協 力

山形県バレーボール協会

【その他】　山形県庁バレー部、　山形医療技術専門学校作業療法学科学生

４ 期 日

令和５年５月 14 日（日） 午前８時 40 分 受付開始 午前９時 40 分 開会式

５ 会 場

上山市体育文化センター アリーナ （山形県上山市けやきの森２番１号）

６ 参加資格

(1) 参加選手は次の全ての条件を満たす者とする。 ① 年齢は、令和５年４月１日現在で 13 歳以上

とする。 ② 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和 25 年法律第 123 号)第 45 条に より、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。一部省略 ③ 申し込み時に参加する都道府県・指定都市内に現住所（住民票のある地）を有する 者。ただし、学校に通学している者及び施設（事業所）に入所・通所している者は、その学校及び施設の所在地の道県・指定都市でも参加できるものとする。

⑵ 参加するチームは、ブロック内の道県・指定都市の代表１チームとする。

{その他参考：都道府県等の代表} 出場選手の選考は障害者団体・障害者スポーツ関係者の選考委員会等で選考し決定。選考の際は大会出場未経験者の出場に配慮する。「全国障害者スポーツ大会競技規則集」より抜粋

全国障害者スポーツ大会ブロック大会には都道府県・指定都市の代表として本大会に参加している。

７ 競技規則

適用する競技規則は、（公財）日本パラスポーツ協会制定「全国障害者スポーツ大会競技規集」及び本大会競技実施要領とする。

・ ネットの高さは２m24ｃｍとする。

・ 試合球 日本ソフトバレーボール連盟公認球ソフトバレーボール球・糸巻きタイプ（モルテン 製円周 78±１㎝、重量 210ｇ±10ｇ） を用いるものとする。

【その他参考】バレーボールのルールは本規則に定める以外は、同年の（公財）日本バレーボール協会競技規則（６人制規則）による。精神障害者のチーム編成では試合中は少なくとも１名以上の女子プレーヤーが出場していなければならない。「全国障害者スポーツ大会競技規則集」競技規則より抜粋

８ 競技方法

⑴ 試合はトーナメント形式とし、３位決定戦及び交流戦（検討中）を実施する。

⑵ 試合は 25 点のラリーポイント制３セットマッチとし、２セットを先取したチームを勝者とする。なお、得点が 24 対 24 になった場合、それ以降は２点リード したチームがそのセットの勝者とする。

９ チーム

チーム構成は、監督１名、コーチ１名、マネージャー１名、選手 12 名以内とし、 男女混合で構成する。

10 特別全国障害者スポーツ大会への派遣

全国大会への派遣は、本大会の優勝チームとする。ただし、優勝チームが辞退した 場合は、順次、順位の上位チームとする。

11 新型コロナウイルス感染症対策について

行政及び関係団体が示す新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを基に、密の回避や手指のこまめな消毒等の対策を講じる

【その他参考】　全国障害者スポーツ大会では、大会冊子等で選手名が公表され、また報道機関や記録としての写真等が撮影される。

Ⅱ参加県と試合

１　大会参加道府県・政令指定都市

参加都道府県：４県１市：青森県（シード県）、岩手県、秋田県、山形県、仙台市

不参加：３道県１市：北海道、札幌市、宮城県、福島県

２　参加チームの概要

① 青森県：「選抜チーム」選手は青森市だけではなく八戸市の選手も参加して選抜チームを作って練習を行ってきた。

② 岩手県：「当事者チーム」盛岡市と花巻市在住で主体的な選手が 12～13 人が集まり、自主的に練習・チームの運営を行っている。ユニフォームも選手自身でデザインして、予算を含めて自分たちでオーダーし、制作してきた。YSVC（やんべ・・）、練習は盛岡市近郊の「ふれあいらんど」（福祉総合施設:岩手県社会福祉協議会）で週１回、昔はコーチがいたが、今は自分たちで練習して、・ホワイトボードで対戦経過等を話し合いながら進めている。

③ 仙台市チーム:「地域の施設型チーム」、練習の時はビブスで参加して円形でボール回しを開始する。

④ 秋田県（MIRAI）:「地域の施設チーム」（就労継続支援等）第１回大会時から参加したチームで、顔見知りの選手から声をかけられる。客席からも大きな声の応援がある。

⑤ 山形県：「地域型チーム」以前はデイケアの活動のチームから、今はデイケアからは離れて地域チームとして活動している。今もデイケアとは連絡をとりながら活動。自分たちで上を向いてに活動を行っている。選手が練習などに集まるだけでも大変で、生活保護の方の移動はかなり大変。この大会が１つのエポックとして、今度の方向性を検討する予定。山形県内では新型コロナウイルス感染症で練習ができなくなったチームが多く、大会参加チームが激減した。また当事者も日常が忙しくなって、練習や人数不足でチーム編成ができない状況もある。

不参加：北海道、宮城県、福島県、札幌市

＊北海道・東北ブロック大会では、北海道や札幌市の参加は、移動距離等の負担が大きく欠席になりやすい傾向がある。障がい者の社会参加の推進である全国障害者スポーツ大会では、予選会のブロック分けに課題が残されている。

３　試合の概要

第１試合

Ａコート：仙台市対岩手県

第１セットは仙台市が先行するが、徐々に岩手県が勝って制する（19 対 25)。　第２セットは、岩手県が先行して勝って試合を制する（14 対 25)。岩手県が２対０で勝ち上がる。

Ｂコート：秋田県対山形県

第１セットは山形県が試合で緊張かミスが出て、秋田県が先行して山形県を引き離す（９対 25)。第２セット目も秋田県が先行して山形県を引き離す（25 対 10)。秋田県が２対０で勝ち上がる。

第２試合

Ａコート：青森県対岩手県

第１セットは､岩手県は声をよく出して先行する｡青森県は控え選手が応援してシーソーゲームになる。後半は青森県が先行するが接戦で白熱して岩手県が制する（22 対 25)。第２セットは、当初から白熱した戦いで、岩手県は徐々に引き離され、青森県が制する（25 対 13)。第３セットは序盤から熱戦で、青森県は立ち上がりが良く先行する。岩手県も青森県に追いつきそうになる等、熱戦が続き、最後は青森県が勝利する（25 対 16)。青森県が２対１で勝ち上がる。

Ｂコート交流戦：山形県対仙台市

山形県は疲れたのか普段の力が出ず、仙台市に引き離される。(10 対 25)

第３試合

Ａコート決勝戦；青森県対秋田県

第１セットは、青森県が序盤に先行する。秋田県も追いつくが、青森県が引き離して試合を制する（25 対 19)。第２セットは、序盤から接戦となる、青森県が少し先行するが、秋田県も点差を追いかけて熱戦が続く。秋田県が徐々に引き離して試合を制する（19 対 25)。　第３セットは、秋田県が序盤に勢いに乗るが、青森県も接戦にもつれ込み、熱戦が続くシーソーゲームで追い付き追い越せの、大接戦が後半までもつれ込む。試合は手に汗握る展開で、わずかな差で青森県が試合を制する。(25 対 22) 青森県が２対１で優勝する。

Ｂコート３位決定戦：山形県対岩手県

①　19 対 25　　②25 対 21　③12 対 25

岩手県が先の試合から時間が短く、選手が昼食をとる時間がなく、観客席から急いでアリーナへ呼ばれる。第１セットは、岩手県が先行する。山形県は追いすがり追いつこうとして良い試合になる。最終的には岩手県が引き離して試合を制する（19 対 25)。第２セットも接戦で進行する。山形県が先行して岩

手県が追いかける接戦となる。最後は山形県が試合を制する（25 対 21）。第３セットは、序盤から接戦が続く、岩手県が山形県を徐々に引き離して、岩手県が試合を制した（12 対 25）。岩手県が２対１で３位になる。

４　試合結果

優勝　青森県、　２位　秋田県　　３位　岩手県

５　次年度開催予定県　福島県

６　まとめ

1）新型コロナウイルス感染症で中止されていたスポーツ大会は、久々の実施である。各都道府県・指定都市のチームは、全国障害者スポーツ大会の基本的な理解と再度周知が望まれる。一方で、誰もがいつでもどこで楽しく参加できるスポーツの推進が望まれる。新型コロナウイルス感染症のまん延でスポーツ練習や大会はここ３年間ほとんど中止や延期された。従って、しばらくぶりの大会であり、全スポ大会の基本的な事項を確認し、また新型コロナウイルス感染症の基本的な対策を丁寧に実施することが肝要である。試合球は日本ソフトバレーボール連盟公認球ソフトバレーボール球・糸巻き（モルテン製円周 78±1 ㎝、重量 210±10g）（品番：S3Y1500）を主催者が用意するが、試合後に齟齬があったとのことがあった。今後は使用ボール球の確認が必要かと思われる。

２）全国障害者スポーツ大会は、行政がスポーツによる障がい者の社会参加促進を推進する活動である。勝つことが目標ではなく、各地域での障がい者スポーツの促進と社会参加が目的であり、各地域全体を代表する選手の参加を推進している。従って、住民票のある地域の代表として参加すべきである。また個人種目では大会参加経験のない方を優先することが望ましいと思われる。

３）全スポに参加する時には、都道府県・指定都市の税金を使うので（住民票がある都道府県・指定都市が基本）、勝つだけではなく、代表となった地域全体への障害者スポーツの普及と啓発の責務があり、選抜チームでの参加が推進されている。そして、大会に参加する選手は、公費（税金）を使用することから、代表となった地域の住民票が基本であり、代表の都道府県・指定都市代表選手として楽しむスポーツへの障がい者の参加者を増やす活動、その地域の市民に対する障がい者スポーツの理解促進、また障がい者の社会参加の役割も担っている。また、同じ都道府県・指定都市内の身体障がい者・知的障がい者の方々との交流推進の担い手でもある。

４）全国障害者スポーツ大会は、障がい者（手帳）が公費・税金で各都道府県・指定都市の代表選手として参加する「障害者スポーツの祭典」である。自分や自分の施設や自分のチームだけが勝つことを目標にする方々は、競技団体を組織してクラブチーム杯やチャンピオンシップ杯、全国チャンピオン競技大会・国際大会等のバレーボール競技大会に参加するべきである。全国障害者スポーツ大会で普及してきたバレーボール競技は、競技組織化し、全スポ以外の全国規模の競技大会の開催が急務である。

特別全国障害者スポーツ大会　燃ゆる感動かごしま大会

関東ブロック予選会　精神障がい者バレーボール競技　　報告書

報告年月日：　令和５年８月17日

報告者所属・氏名：　一般社団法人 精神障害者地域生活支援とうきょう会議　　瀬川　聖美

1.　大会概要

１）　大会正式名称：　特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」バレーボール競技(精神障害部門)関東ブロック地区予選会

２）　大会開催日時：　令和５年５月５日(金・祝)　９：50～17：00

３）　大会開催場所：　八王子市富士森体育館

東京都八王子市台町２丁目３－７

４）　主　催　：　公益財団法人 日本パラスポーツ協会

公益社団法人　日本精神保健福祉連盟

東京都

公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会

主　管　：　公益財団法人 東京都バレーボール協会

協　力　：　東京パラスポーツ指導者協議会

東京都立翔陽高等学校 女子バレーボール部

５）　大会運営事務団体：公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会

６）　参加都道府県数：６都道府県　３指定都市　　９チーム

７）　参加チーム名：　栃木県　群馬県　埼玉県　千葉県　神奈川県

千葉市　横浜市　相模原市　東京都

※埼玉県、東京都は選抜チーム。他は単体の事業所や医療デイケア、クラブチームのようであった。

８）　参加者合計 ： 260名（選手及び監督等160名、観客数約70名、審判及び大会関係者約30名）

２．競技会状況・試合の進捗状況

会場探しに難航し、５月５日というゴールデンウィーク真っただ中という日程になった。そのため、バス利用のチームの到着が心配されたが、開始時刻には全チームが揃うことができた。

長らく関東ブロックは横浜市、埼玉県、東京都の３強時代が続いているが、今回は元横浜市の舞岡病院デイケアチームがクラブチームになり、神奈川県代表として出場。昨年の全スポ開催県の栃木県チームも継続して活動することが決まり出場した。

２回戦の埼玉県と東京都戦は接戦で１セット目は埼玉県が取り、２セット目はデュースに持ち込み、東京都が取り、３セット目も取り東京都が勝利した。

決勝は横浜市対東京都と昨年と同じ対戦となった。２セット目は最後に横浜市が追い上げたが、東京都が逃げ切り関東ブロックを２連覇した。

交流戦では監督者会議であるチームが敗戦を予測し、「敗戦した場合、交流戦は辞退する可能性がある」と発言。その後敗戦し、審判団や主催団体である東京都障害者スポーツ協会に相談することなく、勝手に敗戦した知り合いのチームに、自分たちは帰宅するので代わりに２試合出場しないかと持ち掛ける。

審判団と東京都障害者スポーツ協会が介入し、交流戦出場資格のある４チームを集めて、話し合ったところ、別のチームも調子を崩した選手がいるので辞退したいとのことで、当初１セットの予定の交流戦参加は２チームに減ったことから、２セットマッチに変更して実施した。

３．大会の結果

優　　勝	東京都（都選抜チーム）
準優勝	横浜市（チームさいとう・さいとうクリニックデイケア）
第３位	栃木県（昨年のとちぎ大会のために結成されたチーム）

４．全体の感想など

東京都チームの帯同であったため、東京都以外の試合はほとんど見ることができなかった。

交流戦での審判団や主催団体である東京都障害者スポーツ協会に相談なく勝手に話を進めた件など、今後は監督者会議で主催者を通してもらえるよう伝えていくなどの必要性を感じた。





【関東ブロック　写真】

特別全国障害者スポーツ大会　燃ゆる感動かごしま大会

北信越・東海ブロック予選会　精神障がい者バレーボール競技　　報告書

日本精神保健福祉連盟　理事

精神障がい者スポーツ推進委員会　事務局長　高畑　隆

Ⅰ概要

１. 目的

特別全国障害者スポーツ大会燃ゆる感動かごしま大会に出場する北信越・東海ブロック代表チームの選考を目的とする

「参考資料」、全国障害者スポーツ大会の目的は、障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に居することを目的とする。

２. 主催

（公財）日本パラスポーツ協会、（公社）日本精神保健福祉連盟精神障がい者スポーツ推進委員会

３. 主管

新潟県障害者スポーツ協会

４. 協力

新潟県バレーボール協会、ＮＰＯ法人スポネットせいろう、新潟県障がい者スポーツ指導者協議会

５. 協賛

（公財）ＪＫＡ

６. 実施日

2023 年６月 10 日（土）（事前練習時間あり）、11 時監督者会議～　６月 11 日（日）12 時 30 分

７. 会場

聖籠町町民会館　〒957－0117 新潟県北蒲原郡聖籠町諏訪山 1280　℡0254－27－2121

８. 試合球

日本ソフトバレーボール連盟公認球ソフトバレーボール球・糸巻きタイプ（モルテン製円周 78± 1㎝、重量 210±10g）（品番：S3Y1500）とし、主催者が用意する。

「参考資料」

１）バレーボールのルールは本規則に定める以外は、同年の（公財）日本バレーボール協会競技規則（６人制規則）による。精神障害者のチーム編成では試合中は少なくとも１名以上の女子プレーヤーが出場していなければならない。ネットの高さは精神障害 2.24m。

２）出場選手は①13 歳以上、②資格要件はア身体障害者手帳交付者，イ療育手帳交付者、ウ精神障害者保健福祉手帳交付者、③参加する都道府県・指定都市に現住所を有する者。

３）出場選手の選考は、障害者団体・障害者スポーツ関係者の選考委員会等で選考して決定。選考の際には大会出場未経験者の出場に配慮する。「全国障害者スポーツ大会競技規則集」より抜粋

４）その他　全国障害者スポーツ大会では、大会冊子等で選手名が公表され、また報道機関や記録としての写真等が撮影される。

９. 全国大会との関連

本予選会は、特別全国障害者スポーツ大会燃える感動かごしま大会（2023 年 10 月 28 日～30 日）に出場するチームを決定する。北信越・東海ブロック大会の精神障害者団体競技予選会とし、優勝チームがその出場権を得る。ただし、優勝チームが本大会への出場を辞退した場合は、順位が上位のチームに出場権が与えられる。

全国大会出場チームのメンバーは、原則として本予選会と同一とする。

Ⅱ参加都道府県と試合

１．本大会参加チーム

新潟市、石川県、福井県、長野県、静岡市、名古屋市、岐阜県、三重県の 8 県市である。

＊不参加は、新潟県、富山県、静岡県、浜松市、愛知県の 5 県・市である。、

２．参加都道府県・政令指定都市の概要

１）新潟市：【地域チーム】名称：PEACE

新潟市内のチームだが、市内だけでは人数が少なくなってきているので、上越市にいる選手と上越市で一緒に練習をしている。監督はバレーの監督。20 年近いチーム。

２）石川県；【病院デイケア】名称：高松ファイターズ

県障害福祉課からの声かけで３つのデイケアで県大会を実施（白山と山中地区と高松の３カ所）。今回の代表となったが人数が少なく選手６名で女子１名。

３）福井県；【地域クラブ・当事者】名称：レッド・サンズ

前の監督から引き継いで今のバレーボール監督が指導している。以前はマイクロバスを買い、監督が運転して遠征していたが、お金が無いので今はバスがない。選手もチラシを作って宣伝している。ユニフォームは使いまわしで使用している。全国障害者スポーツ大会福井大会(H30)までは予算があった。大会が終わると減額などで少なくなり、活動予算や遠征予算がない。名古屋市のチームとの交流がある。

スポーツ大会は色々な大会があるのが当たり前で、公的なこの県代表形式の全スポでだけでなく、行政や県とは関係なく、組織化して多様な大会でクラブ杯、地域大会、〇〇大会、オープン大会など、幾つもの大会があるとよい。そこから、日本代表選抜などで国際・世界大会も５年以内にあるとよいと思う。今やっている各地の大会をオープン大会でやって欲しい。各地の情報と連絡が欲しい。　選手は 10 人（女子 2 名）で、元バレーボール経験者、リベロ選手を採用している。

４）長野県【地域事業所Ｂ型等】名称・Ｒａｉｎｂｏｗ 絆

2 カ所の作業所・支援センター等の抽選会で、この大会に参加した。前の指導者の時から毎週水曜に確実に体育館が借りられ練習をしている。今は 10 人ほどが参加している。

５）静岡市【病院デイケア】名称；日本平ドリームス

静岡市内は、新型コロナウイルス感染症でバレーボールの練習を実施していない所がほとんどであり、当チームだけが練習を続けていた。そこで、本大会に参加することとなった。もう 1 カ所のデイケアと合同チームを組もうと打診をした。選手は９名（女子２名）で人数が少なく高齢の方もいる。ユニフォームには静岡市を入れるように言われて市の名前を入れた。バス等は市の予算（公費）で参加した。、

６）名古屋市【クラブチーム】名称:NAGOYA サーティーズ

選手は、11 名（女子３名）である。試合時、チームは１日目と２日目で違う試合ユニフォームに着替えている。このチームは全国障害者スポーツ大会に、このブロック代表として参加している常連チームである。２名ほど体調不良などでいつものポジションとフォーメーションとが異なる。

全国障害者スポーツ大会だけではなく、全国的なクラブチーム等の大会が必要と思って活動している。埼玉、名古屋、大阪、九州などの各地のオープン大会を実施しているので、これらを組織化して、全国カップ杯ができるとよりよい。全国障害者スポーツ大会のように行政の県や市の精神障がい者（手帳所持）でなく、精神障がいの参加する全国規模のスポーツ競技大会が必要。来年度の全スポは佐賀県である。埼玉県での競技大会では、優勝してトロフィーを名古屋に持って帰ってきている。新型コロナウイルス感染症でその後の競技大会がなくなり、トロフィーを持ったままである。早く各地の大会が開催されるとよい。全国規模での組織化で、クラブチーム競技大会が再開されるとよいと思っている。選手主体の地域クラブ型のチームである。

７）岐阜県【地域型チーム】名称：岐阜県選抜

県大会をやって選抜チームでこの大会に参加している。練習は岐阜市から 20 分くらいの名古屋に近い所に集まって練習している。選手は、それぞれ近くのそれぞれ別の市に住んでおり、練習の時に集まっている。ユニフォームには岐阜県選抜の名称が明確に記載されている。選手は10名（女子４名）で、スタッフは病院や支援センターの方々で、地域のクラブである。

８）三重県【地域の事業所（障害者支援センター等)】名称：チューズDayず

選手は10名でスタッフはバレー指導者１名、他に２名は指導員。練習は金曜日夜に３カ所の中で、その時に予約できた場所で行っている。２年前の三重県での全国障害者スポーツ大会に向けては、力が入っていた。今回は県の予算（公費）で参加した。経路は、名古屋から東京を経由し新潟県へと、かなりの遠距離である。現状は、名古屋市との交流はない。以前に三重県在籍の選手が名古屋市の選手と交流があった。

３．試合の結果

アリーナの電気設備に故障があり、修理が前日夜までかかった後、回復して大会実施となる。

当日の体育館は蒸し暑く、真夏日で、アリーナの四隅に大型の扇風機を置いての試合である。また観覧席の窓カーテンを閉めたままで、窓を開けて風を通している。東海・北信越ブロック大会は、参加するのにかなりの距離があるので、２日間の開催である。

大会１日目:６月10日（土）午後

１）第１試合

（１）Ａコート　　名古屋市対石川県　２対０で名古屋市

第１セットは、石川県がよく拾うが名古屋に徐々に差を広げられ名古屋市が勝利する（25対16)。第２セットは初盤接戦でシーソーゲームが続くが、名古屋市が引き離す（25対16)。名古屋市が２対０で勝ちあがる。

（２）Ｂコート　　三重県対新潟市　　２対０で三重県

第１セットは、新潟市は地元でもあったせいか、緊張しているのが目立ち、三重県が徐々に引き離す。三重県が勝つ（25対11)。第２セットは、新潟市が良いプレーをして接戦になるが、三重県は女子選手等がよく打ち返し、徐々に引きはなす（25対13)、三重県が２対０で勝ちあがる。

２）第２試合

（１）Ａコート　　長野県対岐阜県　　２対０で長野県

第１セットは、長野県はまとまりの良いチームで、岐阜県との差が広がる。岐阜県は緊張したのかフォーメーションが乱れ、長野県がリードを広げて大差で勝つ（25 対９)。第２セットは長野県も初盤は

力が入ったのか、ミスもあるが長野県が引き離し（25 対 12）２対０で勝ち上がる。

（２）Ｂコート　　静岡市対福井県　　０対２で福井県

第１セットは、静岡市は高齢の選手もいる病院デイケアチームで、バレーボールの基本はなんとかできているが、審判からポジション位置を指示される。福井県はバレーボール指導者の基本がよくできてるチームなで、若い女子１名は部活でバレーボール経験者、男子も背が高い選手、リベロ女子選手の動きが良い。福井県が静岡市を徐々に引き離して差を広げ大差で１セットを取る（25 対９）。第２セットは、福井県監督は選手に勝つだけではなく楽しんで試合を行ってくれればよいとの方針。静岡市が追いすがるが福井県に突き離されて、福井県が第２セットを取って勝ち上がる（25 対 15）。福井県はセット後半での勝ちが見えると、控えの選手も順番にコートに出場させている。結果、福井県が２対０で勝ちあがる。

３）第３試合　時間が早く進んだので少し早めの進行となる

（１）Ａコート　　名古屋市対三重県　　２対１で名古屋市

両チームともそれほど背が高い選手はいないがフォーメーションでの推進で、名古屋市が少しリードするが一進一退で追い込まれて、第１セットは三重県が先取する（21 対 25）。第２セットは名古屋市がリードするが、シーソーゲームで試合が進み、名古屋市が第２セットを勝ち取る（25 対 18）。第３セットは、三重県も盛り上がって、じりじりと名古屋市に差を広げる。コートチェンジ後は名古屋市が追いつき追い越し、体力が勝るのか経験なのか名古屋市が勝ち上がる（25 対 17）。名古屋市が２対１で決勝戦に勝ち上がる。

（２）Ｂコート　長野県対福井県　　０対２で福井県

第１セットのはじめはシーソーゲームの展開で、福井県の女子はスパイクや回転レシーブ、男子もランニングサービスやアタックと徐々にリードを広げ、長野県が引き離されて福井県が１セットを先取する（13 対 25）。第２セットは、福井県がリードしてそのまま勝ち上がる（７対 25）。福井県が２対０と決勝戦へと勝ち上がる。福井県は、勝ちが見えてきたセット後半では、控えの選手もコートに出して試合を進行する。

大会２日目：６月 11 日（日）午前

決勝戦と３位決定戦である。

１） 第４試合

（１）Ａコート；名古屋市対福井県　　０対２で福井県

名古屋市は試合慣れしていて、ユニフォームを着替え、声も良く出ていて、良く動いている。福井県はあまり寝ていないようだとの事だが、長身男子・リベロ女子等がよく動いて、名古屋市を徐々に引き

離す。名古屋市が追いすがり接戦になるが、徐々に名古屋市を引き離す。終盤に福井県は控えの選手も出す。第１セットを福井県が先取する（20 対 25）。第２セットは、開始当初から接戦が続くが福井県が徐々に引き離す。終盤に福井県は控えの選手も出して勝ち上がる（15 対 25）。福井県が２対０で優勝となる。

（２）Ｂコート：三重県対長野県　　２対１で三重県

第１セットはお互いに一進一退の試合で、三重県は時に女子がコート内に２名となる。当初は三重県がリードするが、長野県が徐々に引き離し、長野県が１セットを先取する（12 対 25）。第２セットは三重県が当初リードするが、長野県が追い上げて接戦が続いてもつれ込み、三重県が引き離して２セット目を勝つ（25 対 22）。

長野県は押され気味になって押し返されて三重県が粘り勝ちになる(15 対 18)。三重県が２対１で勝つ。

４. 試合結果

優勝　福井県　　２位　名古屋市　　３位　三重県

５. 次年度予定開催県

石川県

６. その他

新型コロナウイルス感染症もあり、スポーツ大会は、久々のスポーツ大会であった。都道府県・指定都市の各チームは、全国障害者スポーツ大会の基本的な理解と規約等の再周知が望まれる。一方で、県代表チームは県内で、楽しくいつでもどこでも誰もが参加する楽しむスポーツの推進が望まれる。

１）全国障害者スポーツ大会（以下、全スポ）は障がい者のスポーツの祭典で、多くの障がい者（手帳所持者）の社会参加の促進、市民への障がい者理解の促進が基本である。従って、同じ選手が何度も全スポ大会に参加するのではなく、新しい選手の参加を推奨している。従って、県で第１位の人が必ずしも全スポに参加できるとは限らない。特に個人競技では、新しい選手の参加を推進している。団体競技はその地域全体の代表として、１施設ではなく選抜チーム・地域クラブチーム等での全スポ参加が望まれる。大会と大会参加は住民票を基本に、その都道府県・指定都市の税金で賄われる。我が国の障がい者は手帳取得者である。

①団体競技のチーム役割は、地域全体のスポーツ、バレーボールの活動促進、いつでもバレーボールができる機会の創設、地域全体の障がい者が楽しむスポーツの居場所づくりの役割の促進等がある。都道府県・指定都市代表なので、自分とチームだけがよいのではなく、地域でより多くの人がスポーツを体験するとともに、楽しむ機会や育成を推進する役割がある。これは障がい者の社会参加の推進である。即ち、全国障害者スポーツ大会に向けた団体競技のチームと選手等の役割は、①選抜チーム等の複数チームで選手を構成する。②全国大会に参加する選手を地域で増やす。③スポーツを通して障がい者の社会参加を促進する。④スポーツ・バレーボールに参加する障がい者を増やす（底辺を広げる）。⑤地域の

障がい者に誰でもどこでも楽しくスポーツをする機会を増やす。⑥他の障がい者（身体・知的）との交流の機会を増やす等がある。

２）近年障がい者の軽度化が言われている。精神障がいには発達障がいの方の増加が言われている。

３）障がい者は重複障がいの選手も増えている。取得する手帳を２つ、３つ所持している方もいる。そこで全スポ大会参加では、例えば、知的障がいで参加していた方が、精神障がいの手帳で参加する方もいる。

４）全国障害者スポーツの目的は、障がい者（手帳所持者）の社会参加と市民への障がい者理解の促進で、障がい者のスポーツの祭典である。全国障害者スポーツ大会の精神障がいの参加者数は 150 人程度で、他の身体障がいや知的障がいの参加選手数の 10 分の 1 以下である。精神障害者保健福祉手帳の手所持者は、現在 100 万人を越えている。手帳を所持していない自立支援医療の方々の全スポ大会参加は、手帳を所持している選手の参加人数を削減させる疎外因子になっていると思われる。社会福祉制度を利用し、自ら手帳を申請して所持している精神障がい者の方が、より多く全スポ大会に参加できる状況が急務である。一方で手帳所持の促進も望まれる。全スポの各都道府県・指定都市選手団（身体、知的）の人数は、各都道府県・指定都市の障害者手帳所持者を按分して、人数配分が行われている。

５）ブロック予選会では、手帳等が期限内であることが参加条件だが、10 月の全スポ本大会では期限が切れている場合がある。従って、選手・関係者は手帳の期限が切れないように、手帳の申請や手続きを速やかに行うなど、選手要件を満たすことが肝要である。

６）スポーツ大会参加は、選手にとって慣れない長期の旅行（長距離移動・宿泊・新たな場所）参加がある。従って、選手のストレス・体調管理に留意されたい。ブロック大会や練習では、新型コロナウイルス感染症等の基本的対策、暑さや気温変化に対する脱水症・熱中症対策などがある。即ち、大会へ向けた日常生活での睡眠・食事・服薬励行、免疫アップへの生活習慣作りが望まれる。

７）全スポの個人競技は、各都道府県・指定都市の選考会で実施されて参加する（なるべく新しい方の参加促進から、1 位の方が参加とは限らない）。団体競技では、ブロック大会への参加を踏まえて全スポに参加する。全スポのブロック大会は、北海道・東北、関東、北信越・東海、近畿、中国・四国、九州（沖縄含む）の６ブロックである。従って、ブロック内でも開催地によっては欠席する都道府県・指定都市がある。ブロック内もかなりの移動距離があり宿泊を伴うなど、現状のブロック分けには課題もある。

８）全国障害者スポーツ大会・ブロック予選会参加では、地元のバレーボール協会・バレーボール審判員と協働し、バレーボールの基本的なルール理解と習得、「全国障害者スポーツ大会競技規則集」「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）」を日本パラスポーツ協会で購入して、障がい者スポーツの理解を深めて頂きたい。できれば、日本パラスポーツ協会認定のパラスポーツ指導者資格の取得が望まれる。

９）全スポ大会は障害者手帳所持者の障がい者スポーツ祭典である。精神障がいの関係者と選手は、全スポ大会の趣旨と選手資格の理解が急務である。

10）精神保健福祉関係者は、全スポだけが大会だと思っている方が多い。本来、精神障がいバレーボール競技団体があって、全スポ大会の団体バレーボール競技の開催がある。また、全スポ以外の全国規模のバレーボール競技大会と国際大会など、多様なバレーボール競技大会の開催が望まれる。





【北信越・東海ブロック写真】

特別全国障害者スポーツ大会　燃ゆる感動かごしま大会

近畿ブロック予選会　精神障がい者バレーボール競技　　報告書

報告年月日：　令和５年８月 17 日

報告者所属・氏名：　一般社団法人精神障害者地域生活支援とうきょう会議　　瀬川　聖美

１．　大会概要

１）大会正式名称：　特別全国障害者スポーツ大会精神障がい者団体競技

（バレーボール競技）近畿ブロック予選会

２）大会開催日時：　令和５年６月３日(土)　９：30～15：00

３）大会開催場所：　兵庫県立障害者スポーツ交流館

兵庫県神戸市西区曙町 1070

４）主 催 者 ：　　公益社団法人　日本精神保健福祉連盟

兵庫県

兵庫県障害者スポーツ協会

協　力　：　兵庫県バレーボール協会

５）大会事務局　：　公益財団法人 兵庫県障害者スポーツ協会　担当：角田 様

兵庫県神戸市中央区下山手通５丁目 10 番１号

６）参加都道府県数：　２都道府県　２指定都市　　４チーム

７）参加チーム名：　兵庫県　大阪府　京都市　神戸市

８）参加者合計 ：　 140 名（選手及び監督等 60 名、観客数約 60 名、審判及び大会関係者約 20 名）

２．競技会状況・試合の進捗状況

近畿ブロックでは当初の意向アンケート結果から６チームの参加を見込んでいたが、実際の申込は４チームであった。そのため、試合開始時間は 11 時に変更。

昨年度のいちご一会とちぎ大会優勝の大阪府チーム「阿武山ワンハーツ」は全国大会優勝後、休眠状態となり、今回の大阪府代表は「Weeeed」という別のチームであった。

大阪府対神戸戦は大阪府の圧勝。京都市対兵庫県は京都市の巧みな攻撃に食らいつく兵庫県という構図であったが、京都市が勝利。

決勝戦は大阪府対京都市３セットまでもつれ込む大接戦であった。１回戦で楽勝した大阪府に比べ、兵庫県戦で体力消耗があったようで最後は力尽きた。

優勝した大阪府は医療デイケア単独チーム

準優勝となった京都市は医療デイケアの単独チームで監督は作業療法士でバレーボールについては全くの素人とのこと。主な指示、タイムアウトは控えのキャプテンがおこなっていた。

兵庫県チームは２か月前にスタートした選抜チームで、現在は２事業所の参加とのことで、今後が期待される。

神戸市チームはボールもモルテン製糸巻きではなく、普通のソフトバレーボールを使用しており、まだまだこれからのチームであった。

３．大会の結果

優勝　大阪府　　準優勝　京都市　　第３位　兵庫県

４．全体の感想など

新型コロナウイルス感染症の影響など参加しない理由はいろいろあるかとは思うが、近畿ブロック大会の参加チーム数が　４チームとは寂しい限りである。

他府県、指定都市の参加が増えることを望みたい。



【近畿ブロック写真】

特別全国障害者スポーツ大会　燃ゆる感動かごしま大会

中国・四国ブロック予選会　精神障害者バレーボール競技　　報告書

報告年月日：令和５年５月 22 日

報告者所属・氏名：（公社）日本精神保健福祉連盟　精神障がい者スポーツ推進委員会

委員　田所　淳子

１．大会概要

１）大会正式名称：令和５年度特別全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神）

中国・四国ブロック予選会

２）大会開催日時：令和５年４月 29 日（土）～30 日（日）

３）大会開催場所：安来市体育館（島根県安来市安来町 1337-1）

４）主催者：島根県、（公財）島根県障害者スポーツ協会

５）共催：（公財）日本パラスポーツ協会、（公社）日本精神保健福祉連盟

６）後援：安来市、（一社）島根県精神保健福祉会連合会

７）主管：島根県バレーボール協会

８）コートオフィシャル：島根県立松江南高等学校女子バレーボール部

島根県立松江商業高等学校女子バレーボール部

９）運営協力：島根県障がい者スポーツ指導者協議会

10）大会運営事務団体・担当者：（公財）島根県障害者スポーツ協会　周藤　祐太

11）参加都道府県；岡山県、鳥取県、島根県、山口県、徳島県、愛媛県、広島市（７チーム）、

オープン参加　高知県

12）参加者合計：

選手団：実人数 120 名

観客数：延べ 30 名（２日間）

本部・運営・ボランティア：延べ 100 名（２日間）

２．競技会状況・試合の進捗状況

１）４月 29 日代表者会議

・質問については事前に受付け、事務局から返答済み。ソックスやウエア等、服装についてのことが多かった。

・代表者会議をもって選手のエントリー締め切りとする。当日欠場選手６名。

・プレーや競技規則についての質問は特になし。

・審判より「モッパー要員がいないので、選手各自がワイピングタオルを所持し、適宜床を拭くこと」と指示あり。

２）試合は８チームによるトーナメント制による。ただしオープン参加チームは敗戦前提とし、対戦チームが無条件で勝ちあがるものとする。

《1 回戦》

●広島市　対　愛媛県

昨年度、全国大会に出場した広島市が圧倒的なパワーを見せてワンサイドゲームを続け、２セット先取で勝ちあがる。

●島根県　対　高知県（オープン参加）

３セット全てデュース前までもつれるような接戦であったが、高知県が勝利した。ただし、オープン参加のため、島根県が準決勝に進むこととする。

●山口県　対　徳島県

力が均衡しているように見え、序盤はシーソーゲームが続いたが、選手の年齢層が若い山口県が途中から勢いをつけて、２セット先取した。

●鳥取県　対　岡山県

鳥取県は選手の年齢層が比較的若く、動きも悪くなかったものの、岡山県の変則サーブに苦しんだ。大会経験選手が多い岡山県が終始リードして、２セット先取した。

《準決勝》

●広島市　対　島根県

速攻・時間差攻撃・バックトス・ツーアタック・ブロックなど多彩な攻守を見せる広島市が終始リード。連携がつながらない島根県は最後まで立て直すことができず、広島市が 2 セット先取して決勝に勝ち上がった。

●山口県　対　岡山県

選手の年齢層が若い山口県は、パワーパフォーマンスは少ないものの動きにテンポがあり自滅ミスも少なく、岡山県は非常に苦しい展開になった。２セット目は岡山県も追い上げを見せるが、山口県はそつのないプレーで逃げ切って、決勝に勝ち上がった。

《交流戦》

●愛媛県　対　高知県

高知県が２セット先取して勝利した。

●徳島県　対　鳥取県

鳥取県が２セット先取して勝利した。

《3 位決定戦》

●島根県　対　岡山県

１セット目は、終始島根県がリードして先取。２セット目は岡山県も本領を発揮し、シーソーゲームが続き、岡山県がデュースを制した。３セット目の試合は、岡山県が若干まとまりを欠き、島根県が勝利。今大会の試合で初めての勝利となった。

《決勝戦》

●広島市　対　山口県

テクニックとパワーの広島市、機敏な動きでカバーする小柄な選手が多い山口県、１セット目はシーソ

一ゲームが続くが、山口県が優勢。しかし終盤、広島市が追い上げ、デュースを制した広島市が１セット先取する。２セット目は、乗ってきた広島市がリードしながらゲームを進めた。山口県は女性選手の負傷退場から歯車が狂ったのか、一時は５点差で広島市がリードするも、山口県も持ち前の機敏さと粘り強い守りでじわじわと追い上げ、後半 18 点で同点にし、それ以後もラリーの連続、最後は山口県が振り逃げ、３セット目の勝負になる。どちらもレシーブ力に優れ、ボールを落とさず、よくつなげる。中盤で同点になり、その後も僅差の攻防が続くが、終盤は根気比べ、気持ちが切れた方が負けの緊迫した試合展開になり、最後はどちらが勝ってもおかしくなかったが、サービスエースで山口県が 25-23 で勝利した。

３．大会の結果

優勝　山口県　　２位　広島市　　３位　島根県

４．次年度について

①次年度ブロック大会の開催予定

令和６年度事務局は徳島県障がい者スポーツ協会

②開催県の決定方法の確認

中国・四国の障害者スポーツ協会、パラスポーツ指導員協議会の会議において、開催地を決定している。

５．大会主催者・関係者との意見交換の状況や感想

《島根県障害者スポーツ協会の意見》

・事前に各チームから質問を募り、関係機関と協議したうえで、質問者や全チームに大会前に返答をするようにした。

・県バレーボール協会から大会当日に各チームに対して注意や指摘事項が話されたが、予めバレーボール協会からその注意事項を聞いておき、事前に各チームに伝えておくと、当日はもっと円滑に進行でき、チーム内で注意事項が浸透したと思われた。

・事務局業務や実施マニュアル、引継ぎが不十分であり、開催準備に戸惑いがあった。後催県に対して、実効的な引継ぎ方法が必要であると感じた。

《島根県バレーボール協会の意見》

・１日目にルール違反や危険につながる事案が散見された。細かい部分ではあるが、公式ルールやスポーツマンシップに則ったプレーを行うことは、中国・四国ブロックの競技レベル向上につながると考え、大会２日目に各チームへ伝達指導した。

①ベンチ内に用品等を持ち込む場合は、ベンチの下または後部に置くこと。

②ベンチ内での写真撮影は不可。

③ベンチ内にうちわを持ち込む場合は、セット間・タイムアウト・給水タイムのみの使用とする。それ以外の時間はベンチ内で保管のこと。

④金属製の装飾品（指輪、ピアス、ネックレス）は危険防止のため装着禁止。

⑤試合中にコート外に出たボールは選手が拾いに行くこと。線審はジャッジに専念することが職務である（線審にボールを拾わせるようなことがあってはいけない）。

⑥ベンチから退席した後にペットボトルが残っていた。ベンチマナーとして片付けをすること。

・試合中に審判からチームキャプテンを呼んで指示を出すことがあるが、チームキャプテンからその後、選手全員にその指示が伝達されない場面があり、監督に指示を伝えざるを得なかった。チームキャプテンは役割を認識して遂行してほしい。

６．その他、全体の感想

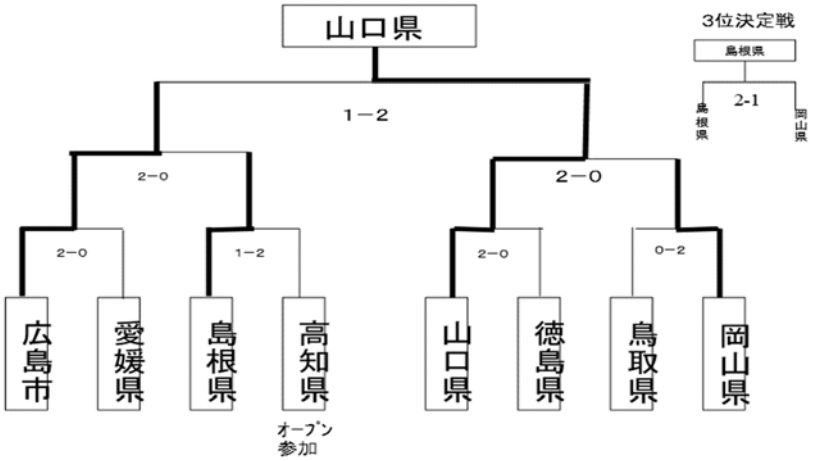
・事務局は、事前の質問によく準備をされ、丁寧に対応をしていただいた。

・当日は足をひねるケースはあったものの、重大な怪我や負傷はなかった。また理学療法士をご準備いただいて、救護や施術の準備が整っていた。

・ユニフォームの自治体名表示は努力義務規定であったが、全チームとも表示がされていた。



特別全国障害者スポーツ大会中国・四国ブロック予選大会
バレーボール競技 精神障害者の部　R5．4．29～30



特別全国障害者スポーツ大会　燃ゆる感動かごしま大会

リハーサル大会兼九州ブロック予選会　精神障害者バレーボール競技　　報告書

報告年月日：令和５年６月

報告者所属・氏名：（公社）日本精神保健福祉連盟　精神障がい者スポーツ推進委員会

委員　田所　淳子

１．大会概要

１）大会正式名称：特別全国障害者スポーツ大会リハーサル大会兼令和5年度特別全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神）九州ブロック予選会

２）大会開催日時：令和５年６月３日（土）～４日（日）

３）大会開催場所：平和公園串良平和アリーナ（鹿児島県鹿屋市有里4820-1）

４）主催者：鹿児島県、鹿屋市、NPO法人鹿児島県精神保健福祉連合会、（社福）鹿児島県社会福祉協議会、鹿児島県パラスポーツ協会、鹿児島県パラスポーツ指導者協議会、（公財）鹿児島県スポーツ協会

５）主管：鹿児島県バレーボール協会

６）コートオフィシャル：鹿屋高等学校、鹿屋工業高等学校、鹿屋女子高等学校、鹿屋農業高等学校、串良商業高等学校

７）大会運営事務団体・担当者：鹿児島県国体・全国障害者スポーツ大会局全国障害者スポーツ大会課　川西氏

８）参加都道府県：福岡県、佐賀県、大分県、宮崎県、福岡市、北九州市（６チーム）、鹿児島県（沖縄県は台風のため直前に来県中止）

９）参加者合計：

選手団：実人数91

観客数：延べ40名（２日間）

本部・運営　延べ80名（２日間）

高校生：延べ100名（２日間）

２．競技会状況・試合の進捗状況

１）6/3 代表者会議

・エントリーは 5/26 に締め切り。当日は欠席選手の確認のみ。

・選手交代、タイム、コート使用についての質問があった。

２）試合は６チームによるトーナメント制による。ただし交流戦は３セット目 15 点先取とする。

３）沖縄県欠席により、空いたコートでの追加交流戦を急遽、設定する。

《１回戦》

●北九州市　対　宮崎県

北九州市のワンサイドゲームにより、２―０で北九州市が勝利する。

●大分県　対　福岡市

福岡市のワンサイドゲームにより、２―０で福岡市が勝利する。

《準決勝》

４チームのうち３チームが福岡勢となる。

●福岡県　対　佐賀県

常に福岡県がリードして進め、２―０で福岡県が勝利する。

●北九州市　対　福岡市

サーブがよく、高さがある福岡市が２―０で勝利する。

《３位決定戦》

●佐賀県　対　北九州市

常に佐賀県がリードし、２―０で佐賀県が勝利する。

《決勝》

●福岡県　対　福岡市

白熱した試合になったが、終始、福岡県がリードし、福岡市は守備に若干の弱さが見られた。２―０で福岡県が優勝する。

《交流戦》

●鹿児島県　対　佐賀県　、　福岡県

鹿児島県は、佐賀県、福岡県と１セットずつ交流試合をした。どちらも鹿児島県が勝利した。

●宮崎県　対　鹿児島県

鹿児島県のワンサイドゲームにより、鹿児島県が２―０で勝利する。

●鹿児島県　対　福岡市（２位）

鹿児島県は攻撃力も強く、危なげなく試合を進め、２―０で鹿児島県が勝利した。

●鹿児島県　対　福岡県（優勝）

鹿児島県が中盤、追いつき、勝利。２セット目も攻撃力を弱めず、大会で優勝した福岡県を鹿児島県が２―０で破った。

３．大会の結果

優勝　福岡県　　２位　福岡市　　３位　佐賀県

４．次年度について

①次年度ブロック大会の開催予定

令和６年度事務局は佐賀県における全国障害者スポーツ大会のリハーサル大会を兼ねる。

事務局は佐賀県庁。

②開催県の決定方法の確認

各県市による協議の場で決定している。

５．大会主催者・関係者との意見交換の状況や感想：

《鹿児島県庁の意見》

・ソックス等の規定については決めかねたまま、大会を実施した。

《鹿児島県バレーボール協会の意見》

・プレー中に選手による遅延行為が数回見られた。10 月の全国大会においては、事前に注意喚起をする。

・10 月の全国大会ではプレー間に音楽（ＢＧＭ）を流し、プロトコール練習最中に選手の紹介アナウンスを流すよう計画。今回、試行的に実施した。

・選手役員のコート内での服装規定が順守できていないチームがあった。

・今後、ＬＧＢＴＱ選手への理解と配慮が必要になるのではないか。

・今回、ユニフォームの統一については特に基準を設けていなかったが、アンダーウエアの着用やソックスが統一されていないチームが多い。10 月の大会に向けて検討をしたい。

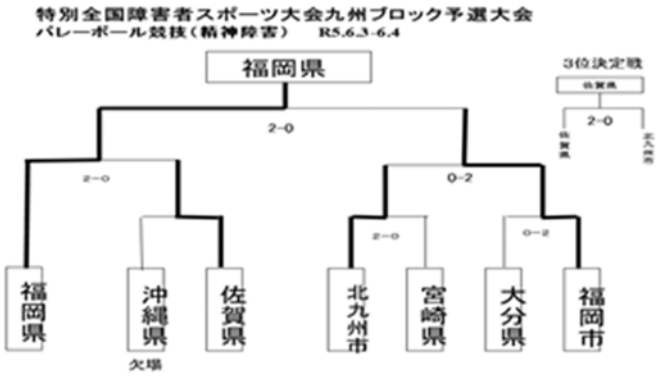
６．その他、全体の感想

・大会中には重大な怪我や負傷はなかった。また看護師をご準備いただいて、救護や施術の準備が整っていた。

・ユニフォームの自治体名表示は義務規定であったが、１チーム表示されていない県があった。

・エントリーシートに男女別の記載欄がなく、今後改定するよう依頼した。

・鹿児島県バレーボール協会の発案により「精神障害の理解と対応」研修の機会が設けられ、バレーボール協会役員、高校生が受講し、障害の理解を深めた。非常に意義あることと思われる。





【九州ブロック写真】

特別全国障害者スポーツ大会団体競技バレーボール精神障害者

ブロック地区予選会開催結果

ブロック	開催地	開催日・会場	優勝	準優勝	3 位
北海道・東北	山形県	令和５年５月 14 日（日） 上山市体育文化センターアリーナ	青森県	秋田県	岩手県
関東	東京都	令和５年５月５日（金・祝） 八王子市富士森体育館	東京都	横浜市	栃木県
北信越・東海	新潟県	令和５年６月 10 日（土）、11 日（日） 聖籠町町民会館	福井県	名古屋市	三重県
近畿	兵庫県	令和５年６月３日（土） 兵庫県立障害者スポーツ交流館（兵庫県神戸市）	大阪府	京都市	兵庫県
中国・四国	島根県	令和５年４月 29 日（土）、30 日（日） 安来市民体育館	山口県	広島市	島根県
九州	鹿児島県	令和５年６月３日（土）、４日（日） 平和公園串良平和アリーナ	福岡県	福岡市	佐賀県

精神障がい者スポーツ推進委員会委員名簿　　令和６年３月12日現在

氏　名	連盟正会員や団体等、スポーツ所属団体等名称及び役職（元も含む）	住所
委員長 高畑　　隆	連盟・理事 日本ソーシャルフットボール協会元事務局長	埼玉県精神保健福祉協会 副会長 〒362- 0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室818-2 埼玉県立精神保健福祉センター内
委員 草地　仁史	日本精神科看護協会・業務執行理事・政策企画局局長	〒108-0075 東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル7F
委員 岡村　武彦	大阪府サッカー協会副会長／ 日本ソーシャルフットボール協会相談役・前理事長	大阪精神医学研究所　新阿武山病院 院長 〒569-1041 大阪府高槻市奈佐原4-10-1
委員 井上　誠士郎	日本ソーシャルフットボール協会参与／ 北海道精神障害者スポーツサポーターズクラブ代表/北海道障がい者スポーツ協会評議員	〒001-0930 札幌市北区新川714番地2 石金病院 外来医長
委員 瀬川　聖美	日本ソーシャルフットボール協会総務担当事務局／ 東京都障害者スポーツ協会理事	社会福祉法人　本郷の森 理事長 〒113-0033 東京都文京区本郷3-37-1 中村ビル2階
委員 鎗田　英樹	NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会　理事長	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部リハビリテーション学科作業療法コース准教授 〒290-0193 千葉県市原市うるいど南4-1
委員 勝嶋　雅之	日本作業療法士協会／ 日本ソーシャルバスケットボール協会・監事	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コース 講師 〒290-0193　千葉県市原市うるいど南4-1
委員 河本 次生	埼玉県障害者バレーボール協会副会長	埼玉県立精神保健福祉センター 〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室818-2
委員 田所　淳子	（公財）日本パラスポーツ協会評議員	高知県安芸福祉保健所 健康障害課　チーフ 〒784-0001　高知県安芸市矢ノ丸1-4-36
委員 水島　仁		国家公務員共済組合連合会立川病院 〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22

令和５年度　精神障害者スポーツ大会開催事業　報告書

発行日　令和６年３月

発行者　公益社団法人日本精神保健福祉連盟

会長　鹿島晴雄

発行所　公益社団法人日本精神保健福祉連盟

〒108-8554　東京都港区芝浦３－１５－１４

日精協会館内

TEL　03-5232-3308　FAX　03-5232-3309